10月26日

（第三種郵便物認可）　陸奥新報

未来にチャレンジを

良き師の教え 財産に

中高6年間で人間形成

OBの福田勝幸さん（拓殖大理事長）に聞く

昨年6月、拓殖大学の理事長に就任した福田勝幸さん(68)は、藤崎町出身で東奥義塾中学・同高校の卒業生だ。福田さんに東奥義塾在学中の思い出や、どのような生徒だったのかをインタビューした。また、最高学府の理事長という要職に就いた感想と今後への決意、さらには後輩に対して熱いメッセージを送ってもらった。

（聞き手・東京支社長渡辺智）

笑顔でインタビューに応える福田理事長

―まず、東奥義塾在学中はどのような生徒だったんですか？

福田　中学から数えて6年間、振り返ってみれば少年期から青年期にかかる多感な時期に在籍したわけですが、どちらかと言えば目立たない、全く普通の生徒でしたね。

―今も鮮明に記憶に残っている思い出などはありますか？

福田　中学、高校とも川崎市郎塾長だったんですが、素晴らしい宗教家、教育者で機会あるごとに義塾創設期の貴重な話をしてもらい、教育的な影響を受けました。弘前公園で創立者の菊池九郎や辛亥革命に参加した活動家の山田良政ら、ゆかりの人の石碑などを川崎塾長と見て回ったことも思い出です。

それから中学、高校とも全校マラソンがあったんです。弘前公園内のグラウンドをスタートして、高校は確か緑ケ丘の方まで行くんですが、馬術部の田沢という先生が馬に乗って追い掛けて来るんですよね。成績は真ん中より少し前だったんですが、あそこの坂はきつかったというのをはっきり覚えています。

3年生の時、クラス対抗の体育大会で総合優勝し、盛り上がったことも思い出ですね。

―次に、東奥義塾で学んだ貴重なものはどのようなことですか？

福田　今になって考えれば、ミッションスクールなので聖書や賛美歌、週1回の礼拝もありましたし、日本の普通の中学、高校にない人間形成という意味で義塾で良かったと思っています。

高校2、3年生とも担任が国語の先生だったんです。特に2年生の時は、先生がクラスで競わせ向上心を持たせるのが上手で、この時は私も勉強したなという気がします。

また現在、東京塾友会の会長をなさっている神忠久先生にも、物理で若くてバリバリで情熱的な指導を受けたことを覚えています。とにかくいい先生に恵まれたことが、私の財産ですね。

―拓殖大学理事長として、決意のほどを伺いたいのですが…。

福田　経済なり文化なりを推し進めていく上で、若い人には常に挑戦が必要です。真のグローバル化に向けて難題を乗り越え、自分のポジションを考えながら行動していく人間が求められます。従来の方針やカリキュラム、各種制度にきちんとしたコンセプトを与え環境を整えることで、特徴ある人間を育てることが理事長としての最大の使命だと思っています。

―最高学府の理事長の立場から私立高校の役割、期待といった部分に関しての所感を聞かせてください。

福田　高校時代は一生で最も多感で伸びるし、逆に言えば感化されやすいし悩む時期。これからの多難な時代、青少年をどう成長させるかという認識を高校、大学が共有しなければなりません。現実にはどうしても受験勉強中心になりがちですが、高校でしかできない体験を積む機会を増やすべきで、その点では県立より私立が特徴を発揮できるはずです。

―人生における座右の銘は？

福田　論語の「信なくば立たず」です。将来を見据えて目標を定め大局的、戦略的に努力してきたという自負はありますね。

―最後になりましたが、東奥義塾の後輩にエールを送っていただければ…。

福田　まず、若いうちは親離れして一人歩きしてみるなど、人生一回はチャレンジすることを勧めたいですね。140周年を迎える東奥義塾は津軽の明治維新、文明開化を担ってきた歴史があります。1期生の功績をベースに教育を通じて文化、産業を発展させたことを今の若い人も誇りに思い、いろいろな人に接して視野を広げ、気概を持って挑戦してほしいですね。

―お忙しい中をありがとうございました。

1961年、東奥義塾高校3年時のクラス対抗体
（後方中央の一段高い所に立っているのが

福田勝幸さんプロフィル

（ふくだ・かつゆき）1944年、藤崎町生まれの68歳。藤崎小学校を卒業後、東奥義塾中学に進み、62年に高校を卒業するまで6年間、東奥義塾に学んだ。67年、拓殖大学商学部貿易学科を卒業後、民間企業に就職。79年、学生主事として母校拓殖大学に戻り学務部長、総務部長、事務局長、常務理事を歴任。2011年6月、理事長に就任した。埼玉県越谷市在住。子ども（1男1女）はそれぞれ独立し現在は敏子夫人と2人暮らし。血液型はA型。

創立140周年おめでとうございます